

いわき農林事務所ニュース 2005年8月・9月合併号

活動状況

○環境にやさしい米(こめ)づくりと水稲直播を推進！ 三和(みわ)町で第1回現地検討会

環境にやさしい米(こめ)づくり推進会議及びJAいわき市水稲直播支援センターの第1回現地検討会が7月29日に、三和(みわ)町の永井担い手水稲生産組合ライスセンターで開催されました。

推進会議と支援センターは、「売れる米(こめ)づくり」を推進するため、生産者や関係機関・団体を構成員として新たに設立し、今年度から活動を始めました。

現地検討会には、生産者をはじめとして、約30名が参加し、特別栽培・エコファーマーによる栽培、水稲直播栽培の管理のポイント、今後の具体的な推進方法についての説明が行われました。また、これからのエコ米(まい)の集荷・販売方策や、残りやすい雑草対策などについて活発な意見交換が行われました。

両組織は、今後とも検討会の開催等を通じて、環境にやさしい米(こめ)づくりと水稲直播栽培の更なる取組みを拡大・推進することとしております。



エコ米(まい)栽培水田での意見交換

○「みんなで創る農業・農村3A運動」いわき地方推進本部会議開催！

8月4日、「みんなで創る農業・農村3A運動」いわき地方推進本部会議が県いわき合同庁舎で開催されました。会議には本部員17名が出席し、3A運動の平成16年度実績と進行状況を、特徴的事例の紹介と併せて確認しました。

続いて、NAN☆COOいわき・ら・ら・ミュウ店の遠藤功治料理長が「外食産業と地元農産物について」、永井地区営農改善組合の藁谷勲組合長が「永井地区営農改善組合の集落営農の取り組みについて」と題してそれぞれ講演が行われました。

遠藤料理長は、県主催の料理教室で講師を務めるなど、うつくしま『食』『農』サポーターとしても活躍しています。講演では、外食産業が求める農産物と国内・外の現状について話され、いわきの農業・農村にエールを頂きました。

藁谷組合長は、集落営農の推進が重点課題とされる中、担い手の育成こそが重要として、平成16年度の豊かなむらづくり顕彰事業で県知事賞を受賞した永井地区営農改善組合の実例を話され、将来的には法人化したいとのことでした。

その後、講師お二人と本部員の意見交換が活発に行われ、有意義な3A運動推進会議となりました。



講師と質疑応答が活発に行われました！

○安全祈願祭・起工式が行われました！ ～経営体育成基盤整備事業 合戸地区～

7月11日に、経営体育成基盤整備事業合戸地区の安全祈願祭が三和(みわ)町合戸の現地で行われ、関係者が工事の安全を祈願しました。

当日は、梅雨の合間の晴れ間がひろがり、天も工事の安全を祝福していると感じさせるような天候となりました。

合戸地区は、受益面積21.8ha、事業工期6年間、総事業費2億9300万円で、平成16年度に事業採択され、今年度からほ場整備工事に着手することとなりました。

安全祈願祭では、農林事務所長、いわき市長、三和(みわ)土地改良区理事長、合戸地区代表らが鍬入れし、関係者が玉串をささげて、工事の安全を祈願しました。その後、合戸集会所に場所を移して行われた起工式では、三和(みわ)町内で最後のほ場整備事業となる合戸地区の人々から「ようやく着工できた。」という喜びや「事業への期待」の声が上がっていました。



安全祈願の様子

トピックス

○第3回治右衛門(じえもん)の堰「あじさい祭」開催！

「第3回治右衛門(じえもん)の堰あじさい祭り」が7月3日に、いわき市立夏井小学校において400名以上が参加し開催されました。

今年で3回目となる「あじさい祭り」は、愛谷江筋(えすじ)愛護会が、愛谷江筋(えすじ)の歴史的価値、多様な機能、地域環境保全の大切さ等への理解を深めるため、水路敷にあじさいを植栽する「あじさいの花いっぱい運動」の一環として行われています。

開会式のあと、あじさいが満開となった江筋(えすじ)沿いを散策し、国指定の「夏井(なつ井)廃寺跡」で夏井(なつ井)地区の歴史を学んだ後、植栽場所となる水路沿いに移動し、昨年挿し木して育てたあじさい苗300本を植栽しました。

会場となった夏井(なつ井)小学校では、あじさい挿し木苗づくり、竹とんぼづくり、ザリガニ釣り、記念講演会、流しそうめんの販売など様々なイベントが開催され、参加者は夏の楽しいひとときを過ごしていました。

また、「あじさい祭り」は、うつくしまエコイベントに認定されており、徹底したゴミの分別回収はもとより、参加者全員によるゴミ拾いも行われ、愛谷江筋(えすじ)の美しい環境と美しいあじさいの花を守るため来年の再会を誓い合って散会しました。



あじさいの花満開の愛谷江筋(えすじ)

○「新舞子ふれあいの森」で下刈り活動

7月3日、いわき市平下神谷の「新舞子ふれあいの森」で、森林ボランティアによる下刈り作業が行われました。この活動は、いわき青年林業会議所が平成13年から行っている新舞子の海岸林保全活動のひとつで、これまでに植栽したマツノザイセンチュウ（マツクイムシ）抵抗性のクロマツ苗木など5,000本、面積約1haの作業となりました。

この日の参加者は、同会議所のメンバーのほか、地区住民などのボランティア、磐城森林管理署、いわき農林事務所及び市の職員等およそ50人で、大鎌を手に雑草を刈り払いました。

ススキなどの雑草は、植栽したクロマツ苗木より背が高くなっているため、マツの苗木を探しながらの下刈り作業となりました。また、大鎌を使っての下刈りはかなり大変ですが、参加者全員が協力して作業を行い、予定の1haの下刈りを完了することができました。

作業後、田子会長から「今のマツの気持ちは、人間でいえば風呂上がりのさっぱりした状態。とても喜んでおられます。」との話があり、参加者も充実した面（おも）もちでした。



一所懸命下刈り作業中！

○渡辺小 「田んぼの学校」その5！

～生きもの調査とぼかし肥料まき～

7月15日、いわき市渡辺町で今年5回目の環境教育事業「田んぼの学校」が開催され、渡辺小学校5年生21名が「生きもの調査・草取り・ぼかし肥料まき」を行いました。

今回は、始めに「生きもの調査」を行いました。パレット内の種類・個体数を調査する作業ですが、イトミミズとユスリカが大量に発見され、児童達もさすがに目が疲れた様子でした。本学校で田植えした10アールの田んぼに換算すると、イトミミズで約5百万匹、ユスリカで約7百万匹もいたことになります！

次に「草取り」を行いました。1列に並んで稲と稲の間を歩きながら雑草を抜いていきました。稲に非常に似ている「稗（ヒエ）」もあったため、児童達は見極めるのに苦労していました。また、稲と稲の間が狭かったため、応援団が持ち込んだ「田車（たぐるま）」は使用できませんでした。田車とは、稲と稲の間を押し、雑草を土の中に押し込む道具です。せっかくある道具を使ってみたいという一心から、田んぼ脇で「田車」にチャレンジする児童達もいました。最初は上手に押せませんでしたが、コツをつかむとスイスイと押していました。

最後の「ぼかし肥料まき」は、前回と同様に乾燥させたペレット状のものを使用して行いました。乾燥させることにより、ニオイも少なく、まいたときに水が濁らないという効果があります。試しにペレット状ぼかし肥料を水で練っていた児童がいましたが、やはりニオイがきつくなり、鼻を押さえる結果となってしまいました。

今回は、8月22日です！児童達の夏休みに合わせて開催します！何をするかは児童達にお任せなので、「泥投げ大会」にでもなるのかな？



生きものを数えるのに一段落(いちだんらく)し、ホッ！

◀ もどる

すすむ ▶

[[▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#)]



手押し車にチャレンジ!